

特集 全国の「大垣」あれこれ

皆さんは、「大垣」という地名が本市以外にあることや「大垣」という名字をもつ「大垣さん」が全国にいることをご存じですか。

今回は、ふるさと大垣への愛着をより一層深めていただくため、皆さんがまだ知らない、大垣の地名の由来や「大垣」姓のルーツなどを紹介します。



大垣の地名はどこから来たの？

「おおがき」の名称が初めて確認できるのは鎌倉時代です。

1329年（嘉暦4年）3月、東大寺文書に「大柿又三郎」という人物が登場します。

「大柿」はその後の史料にも多く見られることから、この時代の大垣には「大柿」の地名があり、地名を苗字にした「大柿氏」が領主を務めたと推定されます。

なお、江戸時代に至るまで「大柿」と「大垣」の名称は併用されていたと考えられ、太閤記などでは「大柿城」との表記が確認できます。



現在の大垣市中心部の航空写真



1600年（慶長5年）の関ヶ原の戦いにおいて、石田三成率いる西軍の拠点となった大垣城に向かう徳川家康に、禅僧が大きな柿を献上すると、「大柿（大垣）が既に手に入った」と喜んだという逸話が残っているよ。

※出典：大垣城の歴史（大垣市文化財保護協会発行）

大垣さんがどこからきたのか、名字研究家の森岡浩さんに聞いてみました



大垣とは、寺院や邸宅の周囲に巡らした大きな垣根のことで、そこから各地に地名や名字が生まれました。

栃木県宇都宮市周辺に集中している「大垣」という名字は、栃木市の大柿という地名をルーツとして、この地域に多い名字「大柿」から、漢字が変化した可能性が高いと思われます。実は大垣市も古くは「大柿」と書かれていました。南北朝時代には地名をルーツとする大柿氏があり、室町時代中期に地名が「大垣」となる頃には大垣氏がいたことが知られています。やがて大垣氏も歴史から消え、今でも岐阜県内には「大垣」という名字は極めて少ないです。

名字研究家 森岡浩さん



1961年高知県生まれ。早大政経学部卒。学生時代から独学で名字の研究をはじめ。名字の世界を、歴史学や地名学、民俗学などさまざまな分野からの多角的なアプローチで追求し、文献だけにとらわれない実証的研究を続けている。

全国の「大垣」さんが大集合!!

平成30年10月6・7日に開かれた市制100周年記念「全国の大垣さん大集合!!」では、「大垣」が名字の人たち約100人が全国から大垣市に集合。ユニークな取り組みとして話題となり、大垣市を広くPRできました。

大垣さん大交流会

<交流会>

全国の大垣さんが一堂に会して、交流会を開催。参加者同士で特産品交換＝写真右＝を行い、お互いのまちの魅力を紹介して親睦を深めました。



参加された大垣さんは、地元に戻って本市をPRしていただくとともに、友達を連れて再訪を約束してくれました。



<おおがきPR大使委嘱>

さまざまな分野で活躍する著名な大垣さんに「おおがきPR大使」を委嘱＝写真左＝。大使の皆さんには、本市の情報発信や事業への協力をお願いしました。

おおがき大パレード

市制100周年を記念し、大垣駅通り一帯で行われた「おおがき大パレード」に大垣さんも参加しました。

大垣さんは、アジア注目のクリエイターの垣友紀恵さんがデザインしたTシャツを着て行進。沿道から「大垣さん」と声をかけられ、笑顔で手を振りながら「はい」と応えていました。

